

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「ファミリーマート、仮設住宅敷地内に臨時店舗」
- 2) 「節電目標達成の家庭に景品」
- 3) 「買い物で社会貢献に一役」
- 4) 「みんなDEカオウヤ」

1) 「ファミリーマート、仮設住宅敷地内に臨時店舗」

ファミリーマートは、東日本大震災で被災した住民の生活支援を目的に、6月10日10時から福島県川俣町保健センターにて、「東日本大震災復興支援連携協定」を締結することを発表した。この協定締結に伴い、ファミリーマート側では計画的避難区域である同町山木屋地区の住民（約400人）が避難する仮設住宅地の敷地内で、6月26日にファミリーマートの臨時店舗を出店する。

今回展開される店舗は、地元の雇用を支えることや、仮設住宅の住民が少しでも「なじみのある暮らし」を取り戻せるよう、山木屋地区で商店を営む店主をファミリーマート社員として雇用し運営する。また、店舗で働くストアスタッフも、山木屋地区住民の中から採用を行う。なお臨時店舗は仮設住宅が終了するまでの営業を予定している。

今店舗では約3週間の短期間、かつ低コストで施工できる“ユニット式仮設店舗”をファミリーマートでは初めて採用した。“ユニット式仮設店舗”では、出店場所やマーケット状況にあわせて5坪単位で店舗設計を変更することが可能となる。

店舗の面積は約25坪・売り場面積約20坪。営業時間は7時から20時までを予定。地域コミュニティや仮設住宅に暮らす人達の生活の快適さに配慮し、コミュニティスペースの設置（8席分）、DVD及び本の無料貸出（DVD約80枚、本約500冊）、レンタカーサービス（計3台）など、通常ファミリーマート店とはサービスを大きく変更している。今店舗についてファミリーマート側では、仮設住宅に居住する山木屋地区の人達の「つながり」の中心として活用してほしいとコメントしている。

仮設住宅暮らしの精神状態を考えても、身近にあったコンビニがまた利用できることは非常に嬉しいことだと思う。無料貸出サービスや雇用など、企業の気遣いもあり、少しでも寂しさや虚しさを解消できる人との繋がりができることを願いたい。

2) 「節電目標達成の家庭に景品」

夏の電力不足に対応した一般家庭の節電促進策として、経済産業省は7月から、消費電力15%削減を達成した世帯にLED電球の交換券などの「景品」を進呈する制度を始める。

対象は、東京電力管内の家庭約 1900 万世帯。6 月中にインターネット上に専用サイトを立ち上げ、東電の顧客番号を入力すると昨年と今年の消費電力を比較することができるようにする。

景品には LED 交換券のほか、外出することで節電を促す映画鑑賞券などを検討。登録するだけで省エネグッズがもらえる参加賞も設ける方針だ。

経産省は日本経団連加盟企業に協賛を求め、景品提供などの協力を求めている。経産省は「財政難ということもあり、なるべく企業からの協力を頂くかたちで節電を進めたい」と話している。

政府は、電力不足対策として、企業や一般家庭に対し、日中の最大使用電力を 15%削減する目標を設定した。工場や大規模ビルなど大口利用者には、違反すると罰金を課す使用制限例を発動するが、電力使用量の約 3 割を占める一般家庭はあくまで強制力のない自主目標。需要が供給を上回ることでおきる不規則な大規模停電を回避する上で、家庭の節電促進が課題となっている。

政府の取り組みに賛同して積水ハウスなど企業単体でも行っていて、節電に対する意識も高まっていきそうだ。節電と言うと身構える人も多いと思うが、クーラーの温度を 2 度上げるだけで 10%の節電になったり少しのことで十分な効果を得られる事が出来るので、節電を叫ぶだけでなくしっかりと知識を広める努力が必要になりそうだ。

3) 「買い物で社会貢献に一役」

東日本大震災に義援金を送ったり、ボランティア活動に参加したりする社会貢献の意識が高まっている。普段の買い物で寄付付きのチャリティー商品を買ったり、被災地で作った野菜などを購入したりするだけでも社会貢献につながるの、どのような商品が社会貢献につながるのか、選ぶ時のポイントをまとめた。

- ・有機野菜などの宅配を手がける大地を守る会では 4 月から「福島と北関東の農家頑張りょうセット」を販売、風評被害で苦しむ農家を応援するため茨城などで取れた野菜 4-5 品を詰め合わせたもので、放射線量が基準値以下であることを確認している。

- ・農林水産省のサイトでは「食べて応援しよう！」と題して被災地の食品が買える店舗やイベントの情報を提供している。

- ・衣料品や雑貨では途上国産品を適正な価格で購入するフェアトレード商品を選ぶことも出来る。ピープル・ツリーや第 3 世界ショップなどの店舗が代表的だ。大手百貨店などでもフェアトレード商品を扱っている。

- ・リサイクル可能な素材で作った物や生産や流通の過程で環境への負荷を減らしたエコ商品を選ぶことも幅広い意味で社会貢献につながるといえる。ただ、どこでどのように作られているかを知ることが大切。

・ 外食でも社会貢献につながるとりくみもあり、テーブル・フォー・ツー・インターナショナルが進めているのは 1 食につき 20 円をアフリカの子どもたちの学校給食の費用として寄付するというもので、全国約 400 の企業や官公庁、大学などの食堂のほか、外食チェーンなどが参加しており、対象となるものを食べると代金のうち 20 円が寄付される。

こうした商品を購入する場合、集めた寄付金などがきちんと社会貢献に使われているか不安を感じる人もいるだろうが、寄付先や使い道などの情報を積極的に公開しているかどうかを一つの目安にすると良さそうだ。

社会貢献につながる商品などの情報を集めたサイト「Sooooos.」は社会貢献の度合いなどに応じて、独自に商品を 6 種類に分類。情報開示していれば寄付付き商品の売り上げや利益の何パーセントが寄付に回るのかといった情報も載せている。こうした情報サイトも活用したい。

普通に消費活動を行う中で人のためになるならば、こうした商品を選んで購入するようにしたい。無理のない支援であれば、今後も継続していけるだろう。

4) 「ミンナ DE カオウヤ」

東日本大震災で被災した障害者福祉施設の授産品を販売する店舗「ミンナ DE カオウヤ」が 5 月 25 日、梅田スカイビル地下 1 階飲食店街「滝見小路」内にオープンした。運営は、福祉事業所支援、障害者雇用支援を手がけるインサイト（大阪市西区）。

被災地の障害者福祉施設から、「活動拠点がなくなり作業ができない」「製品作りはできるが販売ルートがなくなり、売り上げが確保できない」などの声が上がっていることを受け、障害者支援に関わりのある 7 団体が「ミンナ DE カオウヤ」プロジェクトを発足。被災地以外の都市部で授産品を販売する店をオープンし、生活・就労支援を行う。

店舗では、宮城、岩手、青森、山形などの約 30 事業所から仕入れた商品を販売。クッキーやキャラメルなどの菓子類から雑貨、民芸品まで幅広い商品を扱う。中でも動物をかたどった木製の箸置き（100 円）や、宮城県登米地方に伝わる食材「油麩（あぶらふ）」（400 円）、レトルト食品の「油麩丼」（400 円）などの人気が高いという。店内中央の柱には来店客が書いたメッセージを貼り付けるスペースがあり、店舗奥には被災地からのメッセージや情報を見ることができるコーナーも設ける。

滝見小路内の 5 店舗と空中庭園の 1 店舗では現在、同プロジェクトとコラボレーションした「油麩丼フェア」を開催。うどん「和佳葉」の「油麩うどん」（600 円）や、日本料理「みやげ」の「油麩 柳川鍋仕立て」（650 円）、中国料理「燦宮」の「牛バラ肉と油麩の広東風煮込み 温玉添え定食」（1,000 円）、焼酎居酒屋「呑気放亭」の「油麩と完熟トマトのビー麩グラタン」（750 円）など、それぞれ趣向を凝らしたメニューで登米市の障害者福祉施設で生産された油麩の消費拡大を図る。提供時間、限定数量は各店により異なる。8 月 8 日まで。

「ミンナ DE カオウヤ」の営業時間は 11 時-18 時 30 分。月曜定休。8 月 31 日まで。

被災地以外でこうした取り組みが行われるのは大賛成だ。これが一部でイベント的に行われるのではなく、もっと日常に身近なスーパーやコンビニで取り組まれれば人々の目に留まる機会も増えるだろう。一時的なものではなく、継続して支援されて欲しいと思う。